

平成27年度 事業報告書

特別養護老人ホーム 大慈智音園

1. <平成27年度法人ヴィジョン>

- ①経営の強化
- ②サービスの質の向上
- ③教育システムの充実

2. <目標>

<ケア部門>

①情報伝達システムの構築

A) 副主任、主任を経由し組織的に報連相ができるシステム構築

以前は同じ部署で一緒に勤務をした事のある、主任と副施設長でさえも、他部署での勤務を経たことから、認識の違いが生まれ、上手く報連相が取れていないことが開設から時間が経過するに従い現れてきており、次年度の課題となっている。

②物品管理

A) 新たな物品においては事務所を経由し各部署へ配置

B) 整理整頓（各フロアで統一した場所での管理）

事務所を経由するシステムは構築できたが、各フロアに入居されているゲストによって必要となる物品も異なることから、物品の量も各フロアでバラバラとなり、保管場所も同様で統一ができなかった。今後、物品量の確認から行っていく必要を感じている。

③基本的ケアの徹底

A) 簡素で誰もが使用できるマニュアル作成

B) 各マニュアルの管理者を決定し定期的な見直しを実施

C) マニュアルに基づいた職員教育

開設前にマニュアルに基づいて研修を実施したが、各フロアに既存施設からの職員を配置することができなかったこともあり、マニュアルに基づいたサポートが行なわれているのかの確認が困難であったことから、中心となる介護職員を育てていくことに力を注いだ。

④職場環境の整備

A) 意見を出し合える場所の提供

B) オフサイドミーティングの実施

各々の職員が意見を出せるよう、各フロアで毎月会議(フロア会議)を開催した。また、食事会なども開催し職員間の関係性の構築を図った。

<経営部門>

①職員の増員を図り開設後3ヶ月にて満床とする。

月	入居者数	必要介護スタッフ	必要看護職員
4月	40名	20名	3名
5月	60名	30名	
6月	70名	35名	

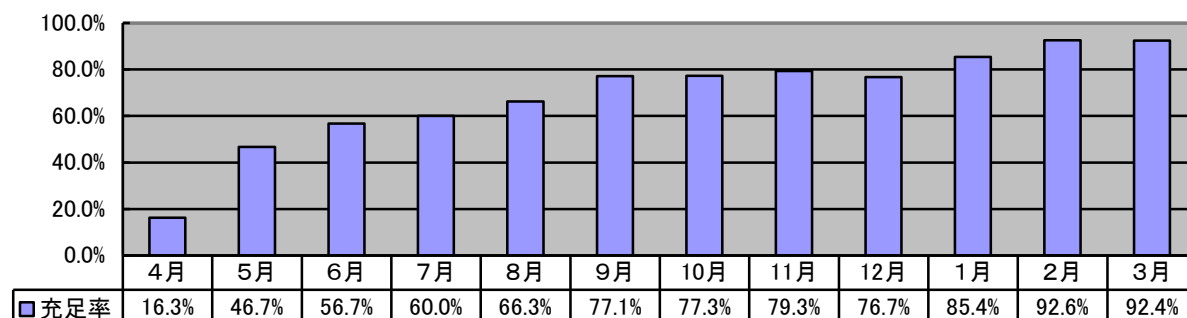
介護職員の確保が困難で、当初の計画の3ヶ月経過した段階では1フロアの開設ができないう状況となった。最終、満床に至るに当たっては次年度へ持ち越す形となった。

②加算取得

A) 次年度へ向け加算取得の検討・体制構築

次年度は認知症専門ケア加算の体制を整えてゆくこととし、介護職員の研修参加への計画を作成。認知症ケアに対する専門性の向上を図っていきたい。

●平成27年度月別充足率表



●入退所等内訳表 (人)

	入所	退所	入院	退院	死亡	外泊
平成27年度	84	6	35	23	10	23

●介護度別年齢別等人数表

平成28年3月31日時点での在籍数

平均滞在期間8.2ヶ月 (男性9.7ヶ月、女性7.6ヶ月)

最高滞在期間11ヶ月

平成27年度				
要介護度	合計人数	男	女	平均
1	0	0	0	
2	0	0	0	
3	18	7	11	87.6歳
4	31	7	24	87.2歳
5	19	6	13	86.2歳
合計	68	20	48	
平均介護度		3.95	4.0	4.0
平均年齢		87.4歳	86.9歳	87.0歳
最高年齢		96歳	102歳	
最少年齢		64歳	43歳	

<相談援助部門>

①定期的なケアカンファレンスの実施

A) アセスメント表の作成と活用

B) 各部署の情報提供方法と体制の構築

C) カンファレンス参加職員の選定と体制構築

アセスメント表、情報提供書を作成し情報を収集する形を構築した。ただ、介護職員としての経験の浅い者も多くゲストをとらえきれない者、パソコンの扱いに不慣れな者が多く、システムがオートマティズムに動くまでには、まだ時間を必要とする。

<栄養科>

ゲストの立場に立つことを忘れず、①～⑥の智音園スタイルに合わせた方法の確立を行う。

① 食事提供方法

ユニットで炊飯をしており、炊き立てのご飯はゲストからも好評を得ている。

② 水分提供方法

水分提供方法はゲスト個々の摂取状態の把握を行い、また1日の合計をその日に計算し、目標量に達していないゲストの把握をし、より細やかなケアにつなげることが出来るよう、職員の意識を高めた。また、水分の種類もゲストの嗜好に合わせてバリエーションを増やした。主治医より水分制限の指示があるゲストについても、上限量を超えないように、1日の中でこまめに摂取することが出来るよう体制を整えた。

③ 栄養アセスメント

栄養アセスメントについては、給食会議・フロア会議等の中でゲスト個々の食事摂取状況・体重の変化などを情報共有し、多職種で取り組めた。

④ カフェ運営

カフェについては、ゲストとご家族が一緒にお食事やコーヒー等を楽しめる場所としており、定期的にカフェをご利用いただけた。

⑤ 給食会議

食事行事についても、季節感やいつもとは違う雰囲気演出できるよう企画を行った。引き続き、嗜好調査等の結果から食事行事の企画を立案できるよう取り組んでいきたい。

⑥ その他、栄養厨房業務全般

栄養厨房業務全般についても、委託業者の協力を得ながら、調整を行っている。

●年間行事食

略語の説明→ち (智音園) SS (ショートステイ)

月	年間行事	内容	施設
4月	ホットケーキ作り	フロアで調理を行った。デコレーションはゲストにさせていただき、盛り付けも華やかにできた。	ち SS
5月	子供の日	柏もちを提供し、好評であった。	ち SS
	母の日	昼食に行事食、間食にあんみつを提供し、好評であった。	ち SS
6月	たこやき作り	フロアで調理を行った。ゲストが盛り付け等を行い、多くのゲストに参加していただけた。	ち SS
	ケーキ作り	フルーツ・生クリームデコレーションを行い、見た目も豪華で好評であった。	ち SS
7月	綿菓子・かき氷(2F)	夏祭りの露店に見立てて行った。かき氷のシロップは選んでいただいた。	ち SS
	串揚げ(4F)	ユニットのキッチンで串揚げを揚げた。できたては好評であった。	ち
	串揚げ(5F)		
8月	おいしい肉	肉が柔らかく味も良かった。もっと食べたいという希望も聞かれた。	ち SS
9月	敬老どら焼き作り	フロアで調理を行った。あんこを包む作業をゲストにさせていただいた。	ち SS
10月	秋刀魚の日	フロアで秋刀魚を焼き、季節感もあり好評であった。	ち SS
11月	おでん	メニュー表を作成し、ゲストに具を選んでいただき提供した。	ち SS
12月	刺身	刺身は人気であった。味も好評であった。	ち SS

	クリスマスケーキ作り	フルーツ・生クリームのデコレーションを行い、見た目も豪華で好評であった。	ち SS
	年越しそば	年越しそばの提供を行った。	ち SS
1月	おせち	おせちは松花堂弁当箱を使用し、見た目も豪華で好評であった。	ち SS
	初詣	鳥居を設置した。おみくじに見立てて、お菓子のつかみどりをを行った。	ち SS
	七草粥	七草粥を提供した。	ち SS
	もちつき	もちつきのお餅はぜんざいにして提供した。味も好評であった。	ち SS
2月	節分の恵方巻き作り	恵方巻き作りは女性ゲストがメインで調理を行った。手際よく作業も進み、盛り付けすることができた。	ち SS
	バレンタイン	間食にチョコレートケーキを提供した。	ち SS
3月	ひなまつり	昼食に行事食、間食に甘酒とひなあられを提供した。	ち SS
	おいしい肉	今年度2回目のお肉も好評であった。	ち SS

4. 《行事等の実施内容・反省点》

月	行事名	部署	内容
5月	願い事叶えます企画～バイキングへ行こう！～	2F	出発時間に遅れたが、バイキング等でゲストは大満足で終始笑顔。馬を見て動物に触れ合うことで楽しまれた様子。帰園後も認知症の方が不隠になられることもなく過ごされた。
	願い事叶えます企画～潮風にあたろう～	2F	ショートステイのゲストが明石海峡大橋の建設に携わった方がおり、普段は不隠、徘徊等があるが「わしが携わった仕事や」と笑顔で話され終始笑顔であった。
6月	おやつレクリエーション～ケーキ作り～	2F	介護職員（もとケーキ屋で職歴あり）とゲストが中心に作成。特に女性ゲストは作ることに喜ばれ楽しまれた。味も大好評であった。
	願い事叶えます企画～日本庭園を散策しよう～	2F	しあわせの村の定食屋でジャンボエビフライを召し上がられ大満足。参加ゲストは全員歩行可能である為、食後に日本庭園を散策し楽しまれた。
7月	たなばた祭り	2F	綿菓子、かき氷屋さんを介護職員が実施。音楽等で雰囲気も出せ、職員ゲスト共に祭りの法被をきていただき共に楽しめた。
	スイカわり	2F	夏の代名詞。ゲストが大きな声を出され楽しめる。割れた瞬間のゲストの喜びはとともよかった。
	イズミヤ神戸玉津店へ買い物に行こう！	4・5F	4・5F合同で実施。計3名のゲストが参加。衣類の購入や食べ物を購入。また、フードコートにてかき氷やアイスを召し上がった。普段とは違った環境を味わえ、過去を思い出す様子もみられている。
	外食・買い物ツアー	4・5F	4・5F合同で実施。計4名のゲストが参加。「南風」にてお好み焼きを召し上がる。「美味しい」「あつあつや」等の感想が聞かれた。買い物も欲しいものを選ばれ、購入されていた。
	外食・買い物ツアー	4F	2名のゲストが参加。土用の丑の日という事もあり、鰻を召し上がる。参加者は入居後、初めての外食であり、

			外出時より嬉しそうな様子がみられた。
	七夕の会	5 F	7月7日に向け、数日前より短冊や飾りを作成。当日にはゲストのご家族様のキーボードでの演奏に合わせ、ゲスト・職員と共に合唱を行った。「星に願いを」を唄った際には特にゲストの表情が和らいだと感じた。
	総務職員と共に近所のローソンへ買い物	5 F	総務職員と共に買い物へ出掛けた。ゲストが希望したお菓子や飲み物を購入。普段関わる事の少ない総務職員と関わり、楽しそうな様子がみられた。
8月	弥勒園手持ち花火に参加	2 F	弥勒園、1 Fの手持ち花火に参加。以前弥勒におられたゲストはとても喜ばれ、良い交流の場となった。
	外出ツアー 美味しいランチを食べよう	4 F	計5名のゲストが参加。「ビフテキのカワムラ」にてハンバーグランチを召し上がる。目の前で焼くパフォーマンスにも感激して頂くことが出来た。ハンバーグは柔らかく、食事形態を気にせずに摂取する事ができた。昼食後にはスーパーに立ち寄り、買い物をし、帰園した。
	誕生者外食	5・2 F	ゲスト2名の誕生日をお祝いする為、『おばけ寿司 玉津店』へ出掛ける。それぞれのご家族様にも参加して頂く事が出来た。家族同士の交流は普段殆どなく、意見を交換する等、貴重な機会となったと感じる。
10月	外食ツアー	3 F	男性ゲストと2名と『おばけ寿司 玉津店』へ外食に出掛け、「超特選握りセット」を注文。普段、徘徊の酷く、落ち着きのないゲストを対象としたが、参加中には表情は穏やかであり、楽しそうに過ごされている。ゲストから「寿司が食べたい」との声が多く、今後も計画していきたい。
	大慈デイサービスを訪問	4 F	計2名のゲストが参加。入居前、大慈デイを利用していた方をお連れし、懐かしい顔を見ると嬉しそうな表情がみられた。帰りには喫茶店に立ち寄り、コーヒーを飲み帰園した。
11月	願い事叶えます企画～お寿司もカレーも食べたいな～	2 F	参加ゲスト個々に食べたいものが違い、食べることでできる店を探すとながさわ江井ヶ島店となった。希望の物を食べられた事と、目の前の海が見れて参加ゲストは大満足であった。
	ビデオ観賞会	全フロア	ダイルームにて「大江戸捜査網」を上映。全フロアのゲストを対象とし実施。計15名程のゲストが参加。参加者にポップコーンを配り、鑑賞して頂いた。途中で寝てしまう方や集中し鑑賞される方等、普段とは違った表情をみる事が出来ている。
	外出ツアー	4 F	計3名のゲストが参加。イズミヤにてショッピングをし、フードコートのロッテリアでコーヒブレイク。外出前には表情が暗かったゲストも到着すると明るい表情となった。
12月	願い事叶えます企画～ながさわ江井ヶ島店、大好評につき第2弾～	2 F	前回、海の見えるところで色々な物を食べる事ができると聞き、女性ゲストが多く参加。海を見られ、外食もされ楽しまれた。
	クリスマス飾りつ	2 F	クリスマスの飾り付けを実施。ゲストと職員で作りなが

	け		ら昔クリスマスで子供にしたこと等と話され有意義な時間となった。
	願い事叶えます企画～お父さんの見舞いに行きたい～	2 F	ショートステイのゲストの個別外出。5 Fに入所されていた旦那様のお見舞いへいく。お見舞いの4日後に他界され、「本当にあの時連れて行ってくれてありがとう」と涙ながらに話されていた。
	クリスマス会	全フロア	フロアの全ゲストが参加。クリスマスケーキを作成。職員はサンタクロースに仮装し、クリスマスカードを配った。また、クラッカーを皆で鳴らし、クリスマス気分を味わって頂いた。
	クリスマスカラオケパーティー	2・4 F	計6名のゲストと1名のご家族様が参加。「シダックス伊川谷店」にてカラオケ・ランチを実施。好きな歌を唄う方も多かったが、松井理学療法士の熱唱に喜ばれる方もおられた。
	にこにこ保育園園児と交流&会食	4 F	計2名のゲストが参加。普段の生活の中で小さな子供と接する機会は殆どない。園児の合奏や歌に合わせて手拍子をする等、普段とは全く違う表情がみられた。園児たちも積極的にゲストと関わろうとしていた。
	クリスマス準備	4 F	11月下旬よりクリスマスツリーの準備を開始。ゲストと協力しツリーを作成した。ゲストからも好評であり、気に入って下さるゲストも多かった。
	5階 クリスマス会	5 F	クリスマスに向け、数日前より画用紙で飾り付けを実施。当日には七夕と同様、ゲストご家族様の演奏に合わせて、クリスマスソングを合唱した。また、クリスマスケーキを提供している。
1月	願い事叶えます企画～正月だから初詣に行きたい～	2 F	元日に諏訪神社へ全ゲスト初詣に行く。「ここに入ったらいけないかと思ってた」等喜びの声が多く聞けた。
	100歳のお誕生会	2 F	ご家族交えて個別外出。西明石にある老舗のお寿司屋さんでご家族と楽しい時間を過ごされる。
	誕生者食事会	4 F	計2名のゲストが参加。「ビフテキのカワムラ」にて誕生日をお祝いし、ランチを召し上がる。口数の少ない方も「美味しい」と笑顔がみられている。
2月	節分	2 F	季節行事の一つとして実施。ノリの悪いまじめな鬼が逆に盛況で、ゲストは喜ばれ季節感を味わわれた。
	誕生者食事会	4 F	計3名のゲストが参加。「ビフテキのカワムラ」にて誕生日をお祝いし、ランチを召し上がる。野菜を好まないゲストも進んで摂取されている。職員との会話も弾み、楽しそうな様子がみられている。
	誕生者食事会	4 F	計3名のゲストが参加。「ビフテキのカワムラ」にて誕生日をお祝いし、ランチを召し上がる。目の前で焼くパフォーマンスを真剣な眼差しでご覧となる方もおられた。ランチ後にはイズミヤに立ち寄り買い物を行う。
	節分	5 F	巻き寿司をゲストに巻いて頂き、昼食として提供。多くのゲストが「昔を思い出すわ」等と、笑顔が溢れている。豆まきも行い、日本の伝統を味わう事が出来た。
3月	誕生者食事会	4・5	4・5 F合同で実施。計4名のゲストと2名のご家族様

		F	が参加。誕生日を「おばけ寿司」にてお祝いする。「こんなに食べれない」と話されていたゲストも寿司を頬張り、美味しそうに召し上がっている。ご家族様からも感謝の声を頂いている。
	誕生者食事会	4・5 F	4・5 F 合同で実施。計3名のゲストが参加。イズミヤ内の「南風」にてランチを召し上がる。普段は摂取量の少ない方も黙々と摂取する姿がみられている。

5. ≪会議の実施内容・反省点≫

① 事故再発防止対策委員会

→事故報告書の記入方法の統一を図り、対策の見直し、周知の徹底状況を確認した。年度途中よりドキドキ報告書の作成を徹底し、内容を検証。リスクの軽減に努めた。ヒューマンエラーによる事故が多発しており、指導方法を含め、委員の教育に力を入れていきたい。

② 感染症防止対策委員会

→既存施設からマニュアルを当施設の形にすることを中心に行なった。ただ、そのマニュアルの周知が上手く行かなかった面がある。しかし、その様な中でもインフルエンザ等の感染が職員のみでありゲストへの感染なく終えたことは評価できる。

③ 非常災害時対策委員会

→この1年間は災害に対する、ルール、マニュアルを確認、徹底してきた。実際に訓練すると問題点が多く、来年度も同様の内容をして行き、災害委員だけでなく、全職員が災害時に対する対応が出来るように努めたい。

④ 行事・給食委員会

→給食においては新たに経口維持加算が創設され、加算要件を満たす為、システム構築を中心に進めた。また行事についても、各階の意見・要望をまとめながら進めたが、行事の内容予算にフロアでのばらつきが見られ、次年度の課題として残った。

⑤ 看取り・褥瘡委員会

→看取りにおいては、開設にあたり3月頃より面接へ伺っていたが、入居された際には状態が変わりターミナル期に入っておられる方がおられるなど、戸惑いながらも一つ一つの事例の振り返りを行なった。褥瘡においては創部の状態、処置等の対応方法と推移状況を確認していった。

⑥ サービス向上委員会

→開設の混乱から開催が遅れる中、2月に大きな苦情があったことから開催し、その苦情に対する対応と「苦情相談・対処報告書」の提出を呼び掛けることから始めた。

⑦ 労働衛生委員会

→雇用している職員が50名を超えた2月より開催。委員会の目的等を職員へ伝えることから始めた。

⑧ 智音会議

→施設長・副施設長・主任相談員・リーダー・各部署の代表者が集まり、行事予定の調整、各部署の情報交換を中心に行なった。

6. ≪リスクマネジメント報告≫

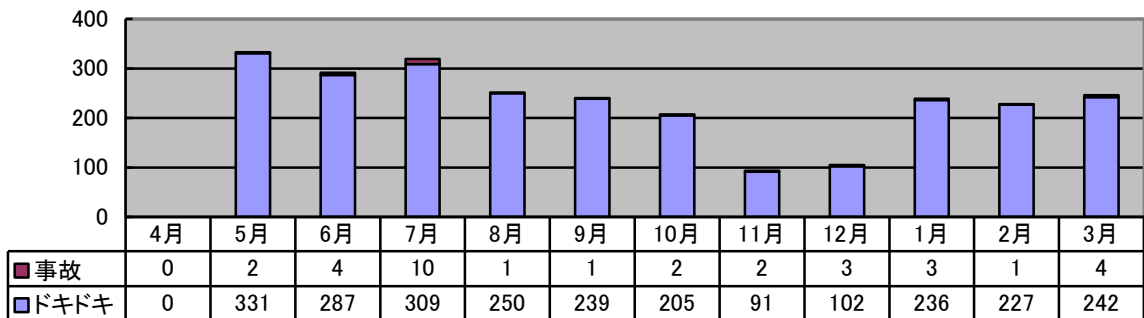
☆事故の定義・・・膝が地面に接地した時点で事故とみなす。

① 報告件数

ドキドキ報告書の件数が21, 265件と多いが、臥床後の動き出しによるセンサー反応からの件数によるものである。開設間もない施設ということもあり、同法人の特別養護

老人ホームである弥勒園等と比べ、ご入居者のADLが比較的高いことを表している。

平成27年度			
報告件数	合計件数	事故	ドキドキ
		21,448件	183件



②発生場所別件数

ドキドキ報告書において臥床後のセンサー反応からの件数が最も多い為、居室の件数が突出して多い。



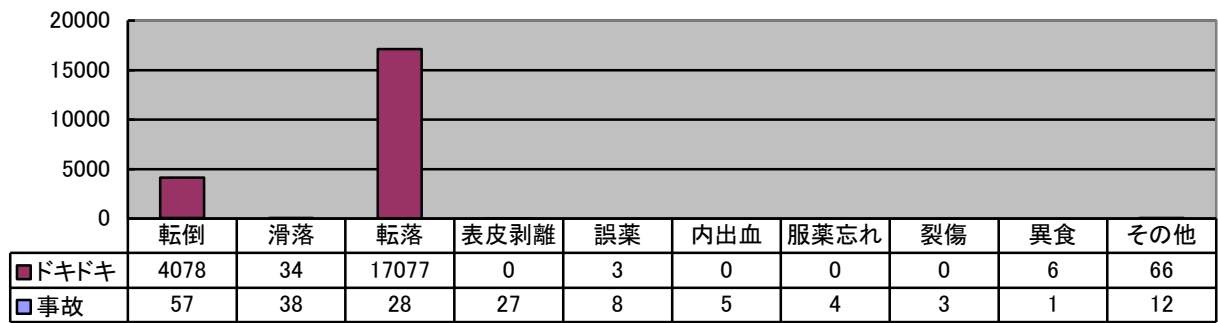
③発生状況別件数

臥床時が突出して多い。これにおいても臥床後の動き出しによるセンサー反応のドキドキ報告書の件数が多いことに起因している。



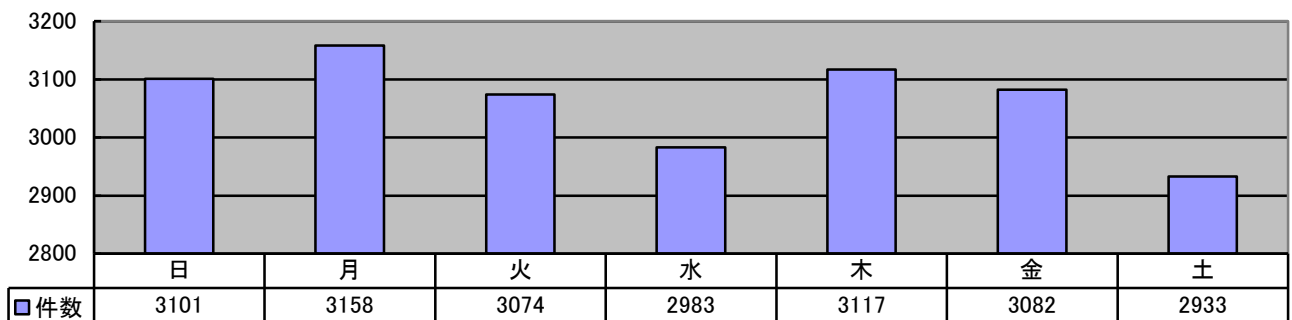
④発生内容別件数

事故報告書においては転倒が最も多く、ドキドキ報告書においては転落が最も多い。これはセンサー反応を転落の恐れとして集計を行なったことに起因する。



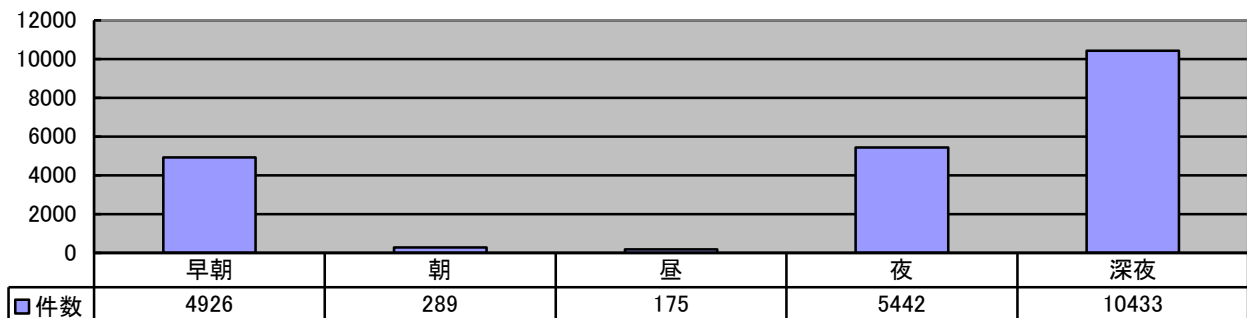
⑤曜日別件数

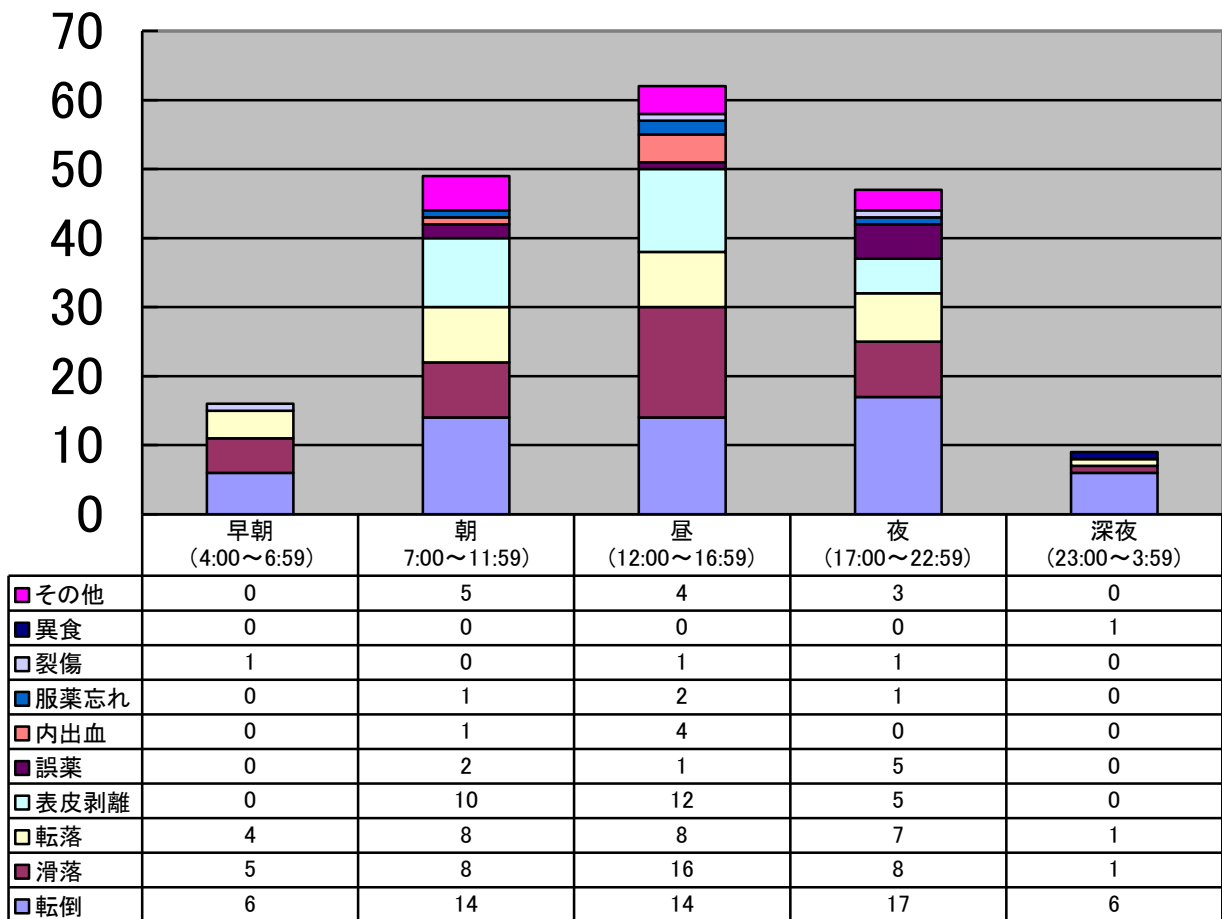
日曜日には入浴がない等の業務の違いはあるものの、ドキドキ報告書の件数として臥床後のセンサー反応の件数が突出して多いことから、曜日別として大きな差が出ていない。



⑥時間帯別件数

ドキドキ報告においては、臥床後の動き出しからセンサーが反応したものが最も多い為、夜から早朝にかけて多くなっている。その反面、事故においては日中が多く、ゲストの活動から事故に至っているケースが多いことを示している。





⑦まとめ

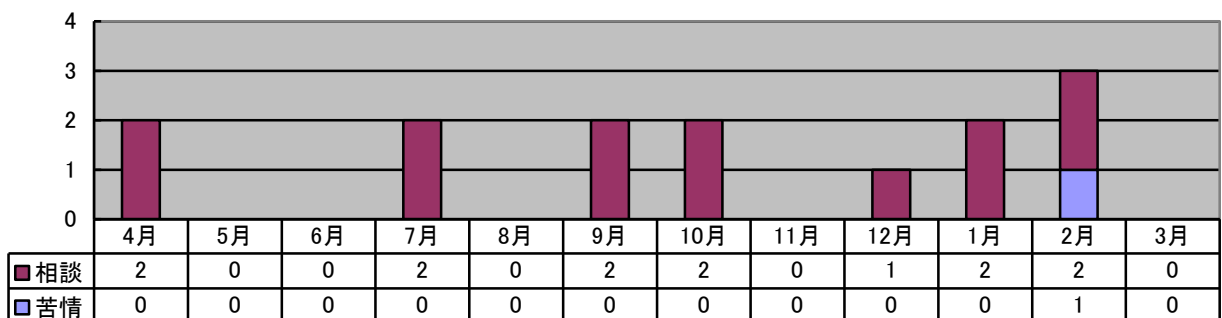
ドキドキ報告書の件数は夜間に多いが、事故報告書の件数は日中に多い。これは、臥床後の動き出しによるセンサー反応の件数が多いこと、経験の浅い職員が多くドキドキの視点が弱いことから逆転現象が生じているものと考えられる。次年度は日中のドキドキ報告書の件数の増加を目標とし職員の視点を強化していきたい。

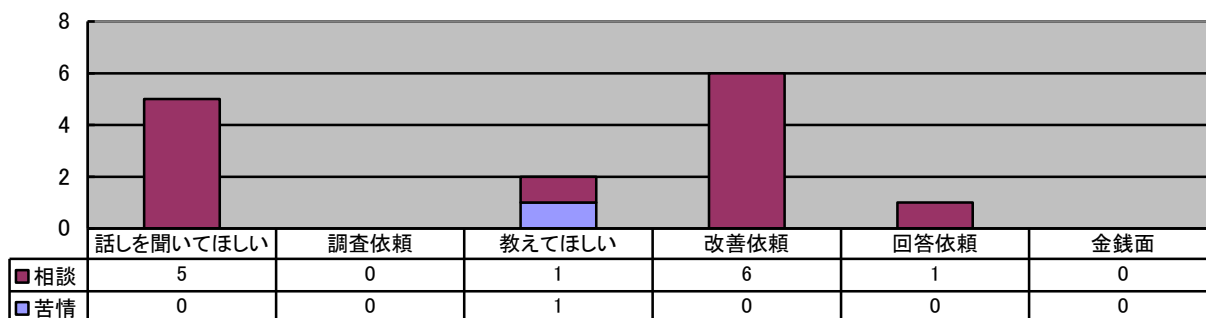
7. ≪苦情・相談結果報告≫

苦情の定義・・・施設長が直接対応した件を苦情とする。

●報告件数

平成27年度			
報告件数	合計件数	苦情	相談
	14件	1件	13件





● 主な内容

職員とご家族とのコミュニケーションの不足からお互いの認識の違いや、開設初年度であることからのソフトウェア不備や職員教育の問題等さまざまである。

● まとめ

今年度、2月にソフトウェア不備、スタッフからの言葉の不足もあり、大きな苦情を受けることとなった。無論、その面においてはソフトウェアの構築、改善を行ったが、何よりも「ご家族と一緒に…」この思いの大切さを痛感させられる出来事であった。今後とも、ゲストがより良い方向へ進んでいけるよう、ご家族共に取り組む姿勢を大切にしていきたい。

8. <<総括>>

今年度は開設というゼロからのスタートであった。開設というものを経験した職員も少なく、予想だにしないこと、思うように対応ができないことが多くあった。

事業を計画的に行って行くことは、ごく当然のことであるが、次から次に起こってくる課題に対し、行動を起こして行くことで1年が終わってしまったというのが正直なところである。

その様な中、一つ大きな課題として見えてきたことは、さまざまな事柄において職員間での認識が大きく違うことである。色々な事業所から開設という出発点に集まってきたわけで、当たり前と言えば当たり前のことであるが、以前は同じ部署で勤務を行なった職員同士であっても、互いに違う部署で勤務を行なっている時間があることで、認識に大きな違いが生まれていた。日々の業務を遂行することに精一杯でコミュニケーションを取ることが不足していたと思われる。

年度の終わりには施設としての最終目標の設定を行った、次年度は「報告・連絡・相談」このことを一番の課題とし取り組むことで、思いを一つに最終目標へ進む体制を構築できればと考える。